

「学習指導と学校図書館」授業レポート

小学校生活科学学習指導案

栗 原 裕 子

(文学部教育学科2年)

山 本 佳奈子

(文学部教育学科2年)

単 元 名 : 「わたしたちの やさいばたけ」

対象学年 : 小学校第二学年(32人クラス)

時 数 : 21時間

指導期間 : 5月～7月

1. 指導目標

単 元 の 目 標 : 自分が育てる野菜の成長に関心を持ち、親しみをもって栽培活動に取り組もうとする。野菜も生命を持っていることや、作物によって世話の仕方が異なること、栽培の大変さに気付く。

情報活用能力の育成 : 必要とする情報を的確に把握し、多くの情報源から見つけ出すことができる。絵や文字でまとめ他の人にわかるように表す。

2. 評価の観点

【関心・意欲・態度】

野菜の成長を楽しみにしながら、親しみの気持ちを持って世話をしようとしている。

【思考・表現】

野菜を育てるために環境や世話を工夫したり、野菜の成長の様子や自分の取り組みなどを絵や文などで表現したりすることができる。

【気づき】

主体的に野菜を育てる活動を通して、野菜も自分たちと同じように生命を持っていることや成長していることに気づく。

3. 活動設定の理由

(1) 児童の実態

児童は1学年のときにアサガオの栽培を経験しており、花がどう育っていくのか知っている。しかし、野菜に関してはスーパーなどの店に売られている姿しか見たことがなく、どのように育ち、実はどう実るのかわからない児童が多い。自ら野菜を育てることで、野菜がどのように育つのか実際に経験させたい。

(2) 学習指導要領との関係

本単元は主に(7)動植物の飼育栽培に基づいている。また(5)季節の変化と生活、(8)生活や出来事との交流とも関連している。この内容は、人間以外の他の生き物の命を大切にする気持ちを育てる重要な内容である。また、自分たちが命を育てているのだという責任感ともいえる意識も同時に育てたい。

4. 使用教材

教科書『せいかつ(下)』学校図書

野菜カード(グループごとに配布)

※資料については別紙の資料リスト参照。

5. 指導計画

※数字が○で囲ってある時間は学級担任と司書教諭で授業を行う。

小単元のねらい	時	学習活動	指導者の支援		評価規準
			学級担任	司書教諭	
やさいづくりのじゅんぴ ・自分の育てたい野菜を決め、栽培方法を調べたり、栽培計画を立てたりすることができる。 ・栽培に必要な物などを準備することができる。	1	アサガオの栽培を振り返る。 3種類の野菜のなかから自分が育てたい野菜を決め、3～4人のグループに分かれる。	去年育てたアサガオを思い起こしながら、野菜についても考え、野菜を身近に捉え野菜を作りたいという意欲を高めさせる。 今後の活動に主体的に取り組ませるため、1つの野菜に限定せず、3種類の中から自分の育てたい野菜を選択させる。		【関】 おいしい野菜を育てたいという願いをもち、育てたい野菜を自分で決め、積極的に栽培の準備や、苗植えをしようとしている。 協力し合いながら、本を使い必要な情報を集めている。 【思】 野菜が育つのに適切な環境を考えながら作業をしたり、そのときの思いを絵や文で表現したりすることができる。 【気】 野菜ごとの葉や花の違いや、継続した世話が必要なことに気付いている。
	②	自分の育てる野菜がどのような成長するかを知る。 葉や花の特徴を知り、野菜ごとに異なることに気付く。	自分の育てる野菜はどのような特徴を持ち、成長するのか知ることによって今後の活動に見通しを持たせる。 グループで調べる際、特定の子に頼らないように留意する。	本の題名などから、闇雲に本を選ぶのではなく、調べたい内容によって適切な本を選ぶことを身に付けさせたい。 目次について教える。	
	③	自分の育てたい野菜の栽培方法を知る。 必要な道具を調べる。	準備するものや、栽培における留意点を調べさせるなかで、やることから戸惑っている児童の支援にあたる。	自分の調べたいことを、はっきりと認識させる。必要な情報を効率的に集めさせたい。	
なえうえ ・自分の育てたい野菜を、おもいを込めて苗植えをすることができる。 ・自分の育てる野菜の様子や、成長への願いを表現することができる。	4	道具を準備する。 土に肥料をまき、個別のプランターに入れる。	本で調べたことを思い出ししながら、準備をさせる。 自分の野菜だという意識を持たせる。		
	5	自分の育てる野菜の苗を植える。			
	6	苗植えの様子や、そのときの自分の思いや願いを絵や文で表現する。	自分なりの方法で、思いを込めて表現できるようにさせる。		
やさいのせわ 自分で育てている野菜の様子を観察しながら、本で調べたり相談したりして、必要な世話を継続することができる。	7	支柱立てや脇芽つみなど必要な世話をする。	脇芽つみや、支柱の立て方などの世話はなぜ必要なのかを考えさせる。		【関】 野菜の成長を楽しみにながら、世話をしている。 育てた野菜を意欲的に収穫したりしようとしている。 【思】 野菜の成長す
	8	野菜の成長の様子を観察し絵で表現する。気付いたことを記録する。	苗を植えたときの観察結果と比べ、成長していることに気付かせる。世		

			話が日常化するように声掛けをする。		る過程や、育つ環境を見ながら、適切な世話を工夫することができる。
	⑨	害虫、鳥害、日照りなどのトラブルに対して、本などで調べるなどして適切に対処することができる。	成長していく中で気を付けるべきことに気付かせる。なるべく殺虫剤などを使わずに、自分たちの手でできることを考えさせる。	児童でも可能な虫除けの方法や、病気の対策の方法がのっている本を紹介する。その際、あくまで児童が主体となって調べるように注意する。	【気】野菜の様々な変化に気付くとともに、適切な世話が必要であることに気付いている。
	10	つぼみや花を観察し、その特徴をとらえ絵に表す。野菜ごとの花の違いに気付く。	それぞれの野菜の花の特徴を比較させる。気付いたことや自分の言葉で表現したことに対し、ほめ、認める。		
	11	実がなる様子を観察する。色の変化や、どのように実が大きくなるのかを知る。	観察や世話を継続して行い、収穫への思いを膨らませる。		
やさいのしゅうかく ・収穫期を迎えた夏野菜を楽しく収穫することができる。 ・自分の育ててきた野菜の収穫の喜びを表現することができる。	⑫	育てた野菜をどうするか話し合う。どのような食べ方があるのか本などで調べる。	自分が育てた野菜を収穫し、どのように食べるのか話し合うことで、期待感を高めておく。	児童の希望に沿うように本を紹介する。	【関】自分が育てた野菜を意欲的に収穫しようとしている。
	13	食べごろを迎えた野菜を収穫する。収穫の喜びや、自分の思いを絵や文で表現する。	収穫できる野菜とまだ熟していない野菜を区別させる。枝を折ったり、傷つけたりしないよう注意させる。		【思】収穫した野菜の様子や収穫の喜びを、絵や文で表現することができる。
	14				【気】毎日の世話や様々な苦労のおかげで、おいしい野菜ができたことに気付いている。
わたしとやさい これまでの野菜の栽培を振り返って、自分の育てた野菜への思いや、気付いたことを表現したり、伝えたりすることができる。	15	自分で育てた野菜の栽培を振り返って、自分で育てた野菜への思いや気づきを絵や文で表現する。	成長の記録や苦労したことなどを振り返り、収穫の喜びを味わえるように配慮する。		【関】野菜を育てた経験から学んだことを、まとめ、みんなに伝えようとしている。
	⑬	グループごとに話し合い、どのように発表するかを考える。	いくつか発表の方法を示し、どのように発表するか、自分たちで決めさせる。	新聞や、紙芝居のようにまとめるなど、いくつかの発表方法の利点と欠点を紹介する。	【思】育てた野菜のことを思い出しながら、成長の様子や世話で工夫したことなどをまとめたり発表したりすることができる。
	17	発表に向けてグループごとに準備をする。	グループのメンバー全員が参加するように留意する。		【気】育てた野菜のことを思い出しながら、野菜によって様々な違いがあることに気付いている。
	18	どのようにまとめると効果的かを考える。	適宜、発表方法について助言をする。		
	19	グループごとに自分たちの育てた野菜	あらかじめ、発表するうえで気を付		

		菜の成長や、気付いたことについて発表する。	けるべきことを教えておく。 評価シートを配布し、することで		
	20	1 グループ10分程度で発表する。 発表を聞く側の態度を身に付ける	他のグループの良い点、改善点について気付かせる。		
	21				

日案

本時の活動(2/15時間目)

・目標

野菜によってそれぞれ異なる特徴があることに気付き、自分が育てる野菜はどのような葉や花の形なのか、またどのように成長していくのかを知る。

自分の調べたいことを明確にし、必要な情報をどう集めるかを知る。また目次をどう活用するかを覚える。

学 習 活 動	○支援、★評価、・留意事項		時間
	学 級 担 任	司 書 教 諭	
1. 本時の学習活動を確認する。	自分の育てる野菜の成長過程について調べよう。		5 分
	○グループごとにカードとワークシートを配る。 ○カードとワークシートについての説明をする。		
2. 自分が調べたいことを認識する。 司書教諭の話聞く。 目次の使い方を知る。	○調べることを認識させるように声掛けをする。	○写真が載っている本、成長過程が分かりやすい本などを紹介する。 ○本によって得ることのできる情報が異なることに気付かせる。 ○目次について説明をする。	10分
3. 司書教諭の話参考しながら本を選ぶ。 自分の育てる野菜はどのカードか調べる。	・グループごとに見て回り、全員で協力して調べるよう促す。 ☆自ら進んで調べようとしている。	○自由に児童に本を選ばせる。 ・どのように調べるかわかっていない児童がいないか見て回る。 ・グループの進度によって個別に情報収集の仕方のヒントを与える。	7 分
4. 選んだ野菜カードの順番を考える。	○一旦話し合いを止めさせ、改めて何を調べるか認識させる。	☆目次を効果的に活用している。	7 分
5. グループごとに考えた種類と順番を発表する。 カードを黒板に貼る。	○全てのグループが調べ終わっていることを確認し、各グループの結果を黒板に貼りに来させる。		5 分
6. 正しいカードとその順番を知る。	○それぞれの野菜のカードとその順番の正解を示す。 ○野菜によって葉の形や花が異なることを確認する。		3 分
7. 本時の学習のまとめワークシートの記入 育てる野菜について気付いたことを発表する。	☆気付いたことや、思ったことを発表する。 ○今日の学習活動をまとめ、次回の授業内容について連絡する。		8 分

わたりつたのちをふたつにわけて

ふたつにわけて

ふたつにわけて

わたりつたのちをふたつにわけて

・わたりつたのちをふたつにわけて

わたりつたのちをふたつにわけて

・

・

わたりつたのちをふたつにわけて

・

・

わたりつたのちをふたつにわけて

・

・

わたりつたのちをふたつにわけて

・

・

・

資料リスト

【トマト】

(イラストー視覚資料)

- ・斎藤光一『やさいのはな』フレーベル館 2008年 P.2-5
- ・小宮山洋夫『やさいのずかん』岩崎書店 1989年 P.12 P.16 P.20 P.22
- ・森俊人『そだててあそぼう[1] トマトの絵本』農山漁村文化協会 1997年 P.1-36

(イラストー育て方・成長過程)

- ・小宮山洋夫『親子でつくる元気のでるキッチンガーデン 無農薬・有機コンテナ栽培』小峰書店 1997年 P.30-33
- ・小宮山洋夫『やさいのうえかたそだてかた』岩崎書店 2000年第13刷 P.4-5
- ・伊東正『ベランダは野菜畑—おいしい野菜をつくろう』偕成社 2001年 P.14-15
- ・富田京一『学習自然観察草花や野菜の育て方』成美堂出版 1999年 P.62-63
- ・鳥居ヤス子『やさいをそだてよう』富山房 1991年 P.14-15
- ・末松茂孝『母と子の園芸教室 野菜をつくろう』さ・え・ら書房 1993年 P.28-29

(写真ー視覚資料)

- ・水野丈夫肥土邦彦『ふしぎをためすかがく図鑑しょくぶつのさいばい』フレーベル館1995年第2刷 P.73-75
- ・網代恒夫成清洋子斎藤明彦『くらしとやさい(おみせやさんシリーズ②)』ひかりのくに株式会社 1994年第2刷 P.8 P.11 P.18-19
- ・埴沙萌『野菜の花』岩崎書店 1986年第3刷 P.9
- ・後藤真樹『食育野菜をそだてる トマト』小峰書店 2007年 P.1-39

(写真ー育て方・成長過程)

- ・大場達之『教科書に出てくる生きもの観察図鑑④ 植物3こく物・野菜 イネミニトマトツルレイシなど』学研教育出版 2011年 P.22-23
- ・早川満生『親子でチャレンジ!花と野菜の育て方』ブティック社 2000年 P.50-53
- ・高橋久光『トマトやナス実を食べる野菜②』小峰書店 2003年 P.4-11 P.22-23
- ・金田初代『野菜を育てよう。』主婦の友社 2007年 P.4 17

- ・生活科を創る会『はじめての飼育と栽培⑨ミニトマト』小峰書店 1993年 P.1-43

- ・バーリィ・ワッツ『くしょくぶつ・すくすくずかん』トマト』評論社 2004年 第2刷 P.1-25

【ナス】

(イラストー視覚資料)

- ・斎藤光一『やさいのはな』フレーベル館 2008年 P.2-5
- ・小宮山洋夫『やさいのずかん』岩崎書店 1989年 P.12 P.16 P.19-20 P.22
- ・山田貴義『そだててあそぼう[2] ナスの絵本』農山漁村文化協会 1997年 P.1-36

(イラストー育て方・成長過程)

- ・小宮山洋夫『親子でつくる元気のでるキッチンガーデン 無農薬・有機コンテナ栽培』小峰書店 1997年 P.26-29
- ・小宮山洋夫『やさいのうえかたそだてかた』岩崎書店 2000年第13刷 P.6-7
- ・伊東正『ベランダは野菜畑—おいしい野菜をつくろう』偕成社 2001年 P.12-13
- ・富田京一『学習自然観察草花や野菜の育て方』成美堂出版 1999年 P.70-71
- ・末松茂孝『母と子の園芸教室 野菜をつくろう』さ・え・ら書房 1993年 P.30-31

(写真ー視覚資料)

- ・水野丈夫 肥土邦彦『ふしぎをためすかがく図鑑しょくぶつのさいばい』フレーベル館1995年第2刷 P.78
- ・網代恒夫 成清洋子 斎藤明彦『くらしとやさい(おみせやさんシリーズ②)』ひかりのくに株式会社 1994年第2刷 P.8 P.10
- ・埴沙萌『野菜の花』岩崎書店 1986年第3刷 P.10-11

(写真ー育て方・成長過程)

- ・大場達之『教科書に出てくる生きもの観察図鑑④ 植物3こく物・野菜 イネミニトマトツルレイシなど』学研教育出版 2011年 P.24-25
- ・早川満生『親子でチャレンジ!花と野菜の育て方』ブティック社 2000年 P.58-59
- ・高橋久光『トマトやナス実を食べる野菜②』小峰書店 2003年 P.3 P.12-17 P.22-23

【キュウリ】

(イラストー視覚資料)

- ・斎藤光一『やさいのはな』フレーベル館 2008年 P.16
- ・小宮山洋夫『やさいのずかん』岩崎書店 1989年 P.12 P.16 P.18 P.20 P.24
- ・稲山光男『そだててあそぼう[11] キュウリの絵本』農山漁村文化協会 1999年 P.1-36

(イラストー育て方・成長過程)

- ・小宮山洋夫『親子でつくる元気のでるキッチンガーデン 無農薬・有機コンテナ栽培』小峰書店 1997年 P.9 P.44-47
- ・小宮山洋夫『やさいのうえかたそだてかた』岩崎書店 2000年第13刷 P.14-15

(写真ー視覚資料)

- ・水野丈夫 肥土邦彦『ふしぎをためすがく図鑑しょくぶつのさいばい』フレーベル館 1995年第2刷 P.76-77
- ・網代恒夫 成清洋子 斎藤明彦『くらしとやさい(おみせやさんシリーズ②)』ひかりのくに株式会社 1994年第2刷 P.8 P.11
- ・埴沙萌『野菜の花』岩崎書店 1986年第3刷 P.8
- ・高橋久光『キュウリやゴーヤ実を食べる野菜①』小峰書店 2003年 P.14-17
- ・後藤真樹『食育野菜をそだてる きゅうり』小峰書店 2007年 P.1-39

(写真ー育て方・成長過程)

- ・大場達之『教科書に出てくる生きもの観察図鑑④ 植物3こく物・野菜 イネミニトマトツルレイシなど』学研教育出版 2011年 P.32-33
- ・早川満生『親子でチャレンジ!花と野菜の育て方』ブティック社 2000年 P.54-57
- ・金田初代『野菜を育てよう。』主婦の友社 2007年 P.18-31

〈考察〉

模擬授業を行ってみて、ただ想定するだけでは分からなかった授業の難しさを体感することができた。今回の模擬授業では小学校2年生を対象とした生活科を行ったが、まず悩んだのは小学校2年生がどの程度の課題をこなすことができるかということである。教科書を見てみると、文字は必要最低限しかなくほとんどを絵や写真が占めていた。そのため図書資料を使う際、文字が多い資料

から情報を取り出すという作業は小学校2年生にとっては難しいのではないかと考え、写真や絵が中心となっている図書を選択した。また授業の目標を、野菜の特徴と成長過程を知ることとしたが、その目標を達成するためにどのような授業内容にするか考えた結果が、野菜カードを使った授業である。カードを使うことで効果的に目標達成を目指すことができたのではないと思う。

日案を考える際、児童への指示の仕方、板書の仕方やそのタイミングが想像していたよりも難しいことに気が付いた。児童が作業に要する時間がどれほど必要か、想定し辛かったものもある。また今回は司書教諭とのT.T.という形だったため、学級担任と司書教諭がどのようにコラボレーションすべきか考えるのも苦労した。コラボレーションの仕方を間違えると、T.T.をするメリットがなくなってしまうが、それぞれの役割を果たすことができれば、効果的な授業を行うことができるのではないと思う。

実際に模擬授業を行ってみて、多くの反省点を見つけることができた。根本的なことから言えば、言葉使いの問題である。授業中、難しい言葉を使ってしまうことを指摘され、そこで初めて自分がそのような言葉を使っていたことに気が付いた。「比較」、「効果的」、「順序」というような言葉は、普段の生活会話でなんの意識もせずに使っているが、小学校2年生にとっては難しいだろう。授業案を考えていくなかで板書に用いる漢字には気を使ったが、実際の言葉使いまでは気が回らなかった。また、目次の使い方を覚えることを目標に設定したが、それならば一度全体で共通の本を使って目次の引き方を体験する時間を設けるか、またはそれぞれのグループに均等に目次のある資料を配るべきだったと思う。

さらに今回の模擬授業では、ワークシートやノートといったものを想定していなかった。しかし、授業を行ってみてやはりなにかその一時間の記録を残すべきだと思い直した。

作成した指導計画についてだが、4、5時間目、13、14時間目、17、18時間目が線で区切られていないのは、2時間連続で授業を行うことを示し、19～21時間目が破線で区切られているのは授業を行うのは一時間ごとだが、授業内容は同じだということを示している。

45分の一コマの授業を行うということが、どれほど大変なのかということが今回体験してみても身に染みて分かった。模擬授業では、同年代の大学生相手だったが、これが実際の小学生を相手にした場合だと、また新たな問題点も見えてくると思う。模擬授業を行うのは今回が初めてだったが、指導案の作成の仕方や、授業を計画する際、どのような点に注意するべきかを知ることができとても良い経験になったと思う。(栗原裕子)

今回の模擬授業では、指導することの難しさを実感した。分単位での授業展開は、わたしたちに緊張感をもたらした。早すぎても遅すぎてもいけない、さじ加減が非常に難しかった。頭で思っても言葉が出てこなかったり、次にやるべきことが飛んでしまったりということも多々あった。

模擬授業後に評価者が、自分自身では気がつかなかった点について客観的に言及してくれたことで、見落としていた部分を改めて考えなおすことができた。例えば、今回は「目次の活用」という点に焦点を当てて司書教諭と学級担任が協力して授業を進めた。しかし実際に目次を活用できたかといわれるとそれは正直疑問である。模擬授業中、司書教諭が教壇に立ち、実際に本を手に取り目次の紹介をしたが、それでは不十分だということが第三者(評価者)の意見により明らかになった。そこで出たのは、児童に目次の使い方を教える際、言葉で説明するだけではなくて、最初に目次が効果的な本をグループごとに配ったあと、児童全員に目次を活用できるような問題を出すことによって目次の活用ができるのではないか、という意見である。まさにその通りだと思った。この模擬授業では小学校2年生の生活科を想定していた。まだ小学生の彼らに、口頭だけで説明するのはあまり適切ではないと、模擬授業後に改めて感じるこ

とができた。

そして言葉遣いにも気をつけなければならない。自分たちでは意識していたつもりでも、つい「具体的」などといった曖昧で難しい表現が出てしまった。もっとわかりやすく易しい言葉遣いをより意識して行うべきだと感じた。

また、今回の模擬授業では、児童たちに板書を促すことはしなかった。まだ単元の最初の段階であったし、目を見て、調べることを授業の軸としていたので、板書の必要性はあまりないと感じていた。しかし、子どもたちに形として残るものが無かった、という意見もあり、これは改善が必要であったように思う。たとえばワークシートを作成するなど、野菜の育つ過程が手元に残る教材を利用すれば良かった。また、授業の目標を板書させて目的意識を持たせることも重要なのではないか、という意見もあった。今回の模擬授業で、野菜の成長過程のわかる写真カードを作成した点は、自分でも良かった点だと思う。しかし、それはグループごとに黒板に貼らせるだけで、最終的に児童たちの手元には残らなかった。なので、黒板に貼らせるだけでなく、その写真すべてを一枚のプリントに印刷して、それを自分のノートにも貼らせるなどの指導ができればよりよい授業にすることができたのではないかと感じた。

私は今回、模擬授業ができて良かったと思う。模擬授業というとみんな敬遠しがちだが、そこで得られるものは自分の自信につながる。模擬授業をしなければ見えなかった点もたくさんあり、模擬授業をしたことで「学習指導と学校図書館」の授業の雰囲気も良くなったように思う。ただ講義を聞くだけではなく、実際に行動してみることが、本来の学びにとっても重要なのではないか。(山本佳奈子)